



Temptation of Slope Soaring Featuring by HARISSA

- Chapter1 プロが教える"アリッサ"製作のポイント
- Chapter2 スロープソアリング特別ガイド

注目のニューモデルでエキスパートを目指す

スロープ ソアリングの すすめ

Presented by RC AIR WORLD

これが今!
面白い!

01

面白今!
これが
面白い!
×4



今月の巻頭特集では、いまもっとも刺激的で面白い4つのカテゴリーをご紹介しよう! そのトップバッターが、大人のホビーとして広く静かに浸透しているスロープソアリングだ。RC最新メカを駆使して大自然と対話するそのスタイルが、多忙なビジネスマンのストレス解消として、また経験豊かなベテランライバーの探究心を満足させるものとして、新たなファンを誕生させているのだ。そこで、これからスロープに挑戦してみたいという積極的な読者に向けて機体製作のポイントとフライトにおける注意点を解説したい。例題機はOK模型がプロデュースしたニューモデル"アリッサ"。大人の趣味心を刺激する、3メートルを超える高性能フルシャーレ機だ!

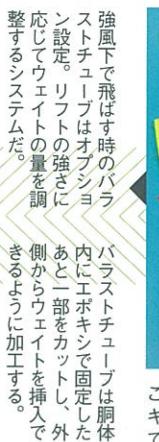
text/K.Yamazaki 山崎和彦 photo/T.Kadouchi 門内常由 取材協力/OK模型 phone06-6725-2031 www.okmodel.co.jp
双葉電子工業 phone0475-32-4395 www.rc.futaba.co.jp ハイテックマルチブレックスジャパン www.hitecrod.jp

プロが教える “アリッサ”製作のポイント

Sect.1

> 脊体と主要メカ積

01



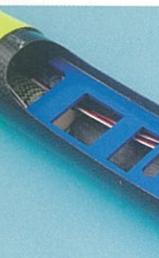
これがすべてのキット内容。製作に必要な接着剤（瞬着各種とエボキシ系樹脂30分）と工具はもちろん、キット純正のパーツに換えて使用するものに関しては個々に説明していく。

02



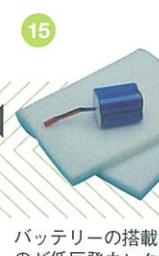
胴体内の配線を作る。主翼との間に6ピンコネクターを用い、メスを胴体側に使用する。ハンダ付けは慎重かつ確実に行う。

03



エボキシにはウルトラマイクロで軽量に盛れる状態にする。

04



バッテリーの搭載に最適なのが低反発ウレタンシート。これで包むだけでしっかりと固定される。

05

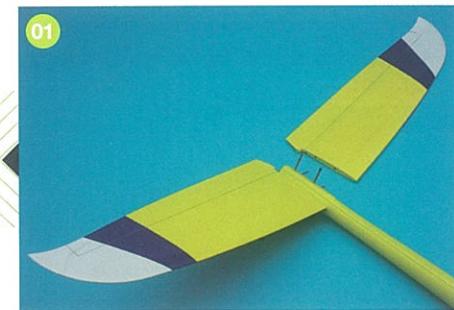


バトルインは適量混入させること。

今回のテーマ機となつたOK模型のアリッサは、翼長3メートルを超える高性能フルシャーレグライダーだ。手作り生産という贅沢なその内容、キットとしてのクオリティの高さは、実際に物を見れば一目瞭然だが、グラライダーとしての性能はまだ決まってはない。そう、設計者の思惑を100%引き出すだけの組み立てを行つて、初めて高性能グラライダーとしてのポテンシャルが宿るのだ。そこで、初めてのユーザーでも失敗しないことを前提に、プロが教える製作のポイントを説明しよう。

Sect.2

> V尾翼のリンクエージ



アリッサのVテールは簡単に取り外しが可能。太いピアノ線でガッソリ固定されておけば完璧だ。



位置が決まつたら瞬間で仮止めしてからエボキシを流す。



位置を決めた後、エボキシを塗りながらロッドを動かしてチェックする。



エレベータのボールリンクが堅い場合は、このようにつまむだけで軽くなる。

リカバリーに使うカーボンロッドをチェックする。



リカバリーに使うカーボンロッドをチェックする。



3m超えの本格的フルシャーレグライダーは、少し前まではとても高価な特別なモデルであったが、OK模型がその敷居を下してくれた。嬉しいニューモデルだ。



エレベータにロッドを立てる穴を開ける。やや大きめに開けて、角度を調整した後、エボキシをたっぷり盛るようにする。



ヒンジ部分はすべて専用マテリアルが埋め込まれているが、長く使うことを考慮してシリコン系のボンドを塗つておく。



エレベータのトルクロッドは純正（下）のネジではなく、ピアノ線で製作する。



位置が決まつたら瞬間で仮止めしてからエボキシを流す。



位置を決めた後、エボキシを塗りながらロッドを動かしてチェックする。



3m超えの本格的フルシャーレグライダーは、少し前まではとても高価な特別なモデルであったが、OK模型がその敷居を下してくれた。嬉しいニューモデルだ。

> 本格シャーレの誘惑

リースナブルに楽しめるフルシャーレ、といえアリッサはあくまでもエキスパート向けのキットなので、トライするにはそれなりの知識も必要となる。しかしセオリーを頭に叩き込み、きっちりと性能を確保した上で本機を投げれば、そのキレのある飛びっぴりに驚くことだろう。大きなリフトを受けて舞う醍醐味様を一度でも味わってしまえば、もうスロープシアリングの虜だ！

機体自体が
これでほぼ完成!
次はメカ積み!

さて主翼と胴体が完成したら、いよいよ合体させてフライト！といきたいところだが、ここで最重要項目が控えている。そう重心合わせだ。ここで少しでも妥協すれば、アリッサが持てる性能を発揮できないどころか、最悪の場合、初フライトで回収不能になってしまう。じっくり取り組もう。

Sect.4

> バランシングは最重要ポイント



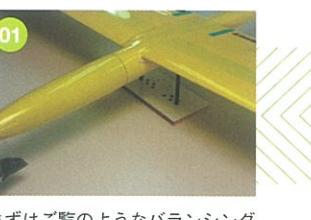
バラスト量が決まったらエポキシと混ぜて流し込むのが、ここで注意したいのが使用するエポキシの重さである。



重心位置は主翼中央部で前縁から88ミリの所。機体を揺らしながら、何回もチェックして最終的なバラスト量を決める。



袋の中にバラスト（ナマリの粒でトップモデル www.topmodel.co.jpにて入手可能）を少しづつ入れながら重心を合わせていく。



まずはご覧のようなバランシング用の器具を用意する。板とロッドがあれば簡単に自作できる。次にノーズに袋をテープで止める。

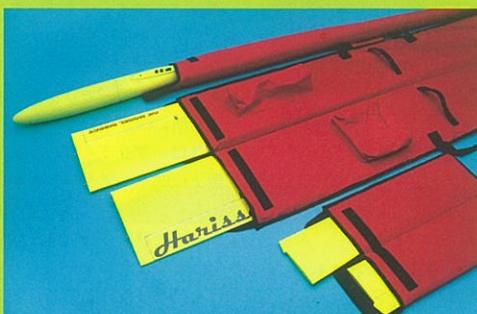


さあこれでフライト準備が整った。リフトが大きいと長く飛ばすことになりがちなので、送受信機のバッテリーは常にフルにしてから飛ばすのがセオリーだ。

Column /// 02

< 専用ケースでスマートに

グライダーに限らず、大きな機体はフライトよりも運搬中に破損する確立が高い……と、マーフィーの法則になりそうだが、あながち冗談とは言えない。そこでアリッサ専用のキャリングケースがお薦めだ。すべてを担いで山に登るような時も、これがいれば安心。



機体パーツすべてを収納できるウイングバッグはポケットもたくさん付いて便利。クレマと現場が遠い場所では必携だ。価格は1万500円となっている。

Column /// 01

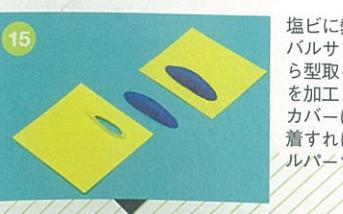
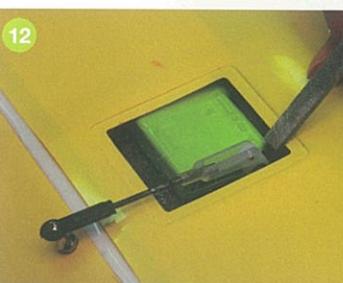
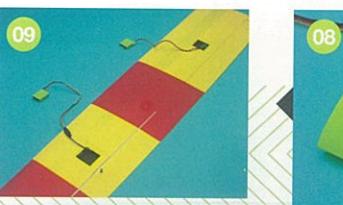
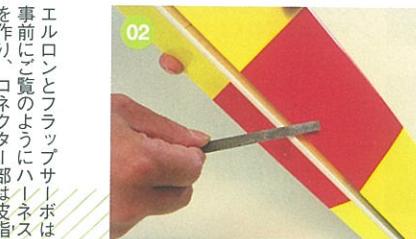
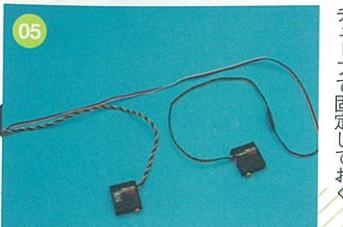
< 電動モディファイも簡単！

アリッサは高性能なモーターグライダーとしてもセットアップすることができる。もちろんモーターとバッテリーといったエキップメントや、加工技術も必要となってくるが、それ自体は特別難しいことではない。高性能スロープソアラーにモーター？と思うことなれど、スロープにいつもリフトがあるとは限らないし、もし何らかの原因でエマージェンシとなった時、モーターがあれば高価な愛機をロストしないでいることもある。この仕様で楽しむエキスパートも多いのだ。



リポバッテリーとレギュレーターを使えば、大きな重量増加にならずにする。小さな掛け金で大きな保険に入れると思えば納得だ。

グライダーにとって主翼は命。せっかく素晴らしいエアロフォイルを持っているが、ほんの少しの歪みが原因でそれを活かしきれないこともある。その点、シャーレ工法によって生み出された製品は理想的なもの。きっちりとリンクageを施することで、高い性能を存分に引き出せるのだ。



エルロンに装着された乱流防止の部品が主翼と干渉しないように削っておく。意外に硬いので棒ヤスリを立てて。



RG15という型式をベースにOK模型が独自にモディファイしたエアロフォイルがアリッサの性能を格段に上げている。

> 主翼のリンクage

RG15という型式をベースにOK模型が独自にモディファイしたエアロフォイルがアリッサの性能を格段に上げている。



エルロンとフラップサーボのマウントに際して、装着の前にサーボケースのタブを丁寧に切り落としておく。



ハーネスのエンドは6ピンコネクターのオスにハンダ付けする。つまりやすいようにシリコン系ボンドなどで被服しておく。